

◇ICT活用のポイント◇

わたしたちの県のまちづくりの学習では、「昔のよさを未来に伝えるまちづくり」として、太宰府市では、なぜ、昔のものが多く残されているのだろうという学習課題を設定し、資料をもとに考えを交流しながら解決する活動を行わせた。

社会科の学習では、これまでに、歴史、人々の工夫や努力、思いや願いに着目して課題解決に取り組んできた。これまでの学習経験を生かして、一人一人が、文章を書いたり(写真①) 画像を取り入れたり(写真②)しながら学習課題の解決において、個人のテキストを作成させることができた。 【個別最適な学び】

次に、考えをまとめた個人のテキストを、共有機能を使って班で交流し、シンキングツールを活用して情報を比較したり分類したりして、見出しをつかって情報整理をさせた。その後、班でまとめたテキスト(写真③)を、学級全体で交流し(写真④)太宰府市に、昔のものが多く残されているわけを歴史、人々の工夫や努力、思いや願いに着目してまとめさせることができた。 【協働的な学び】

終末段階では、たくさんの情報を取り入れて考えが深まったあと、学習のまとめとして、学習のふり返りを書いたテキスト(写真⑤)を提出箱に提出させ、それぞれ考えをタブレット上で交流し、さらに考えを深めさせることができた。 【個別最適な学び】



写真①



写真②

活用場面

□ 導入

■ 展開

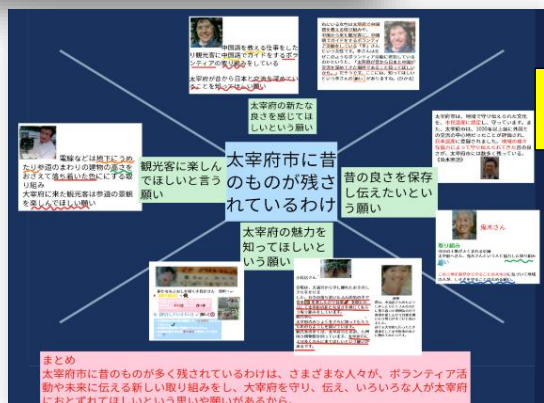
■ 終末



写真④

振り返り  
太宰府の人たちが協力し合って守っているところを見たら、市民の人たちが、お金はもらえないのに一生懸命に史跡や文化財を守って保存しているところがかっこいいなあと思いました。僕も太宰府に行ってみて、ボランティアをしたいなあと思いました。

写真⑤



写真③

まとめ  
太宰府市に昔のものが多く残されているのは、さまざまな人々が、ボランティア活動や未来に伝える新しい取り組みをし、大宰府を守り、伝え、いろいろな人が太宰府におとすれてほしいという思いや願いがあるから。